

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2025年1月17日（第1版）

承認番号	24175
課題名	乳腺・胸壁への放射線治療の皮膚炎悪化の要因の検討
研究期間	西暦 2025 年 4 月 8 日（実施許可日） ～ 2027 年 3 月 31 日
研究の対象	2024 年 1 月～2024 年 12 月に旭川医科大学病院で乳腺・胸壁への放射線治療を受けた患者さんのうち放射線性皮膚炎悪化によりステロイド軟膏（リンデロン・アンテベートなど）を処方された患者さん
利用する試料・情報の種類	□診療録・看護記録・治療RIS（部門システム）にある情報から年齢・身長・体重・BMI・放射線治療に関する情報・セルフケアに影響する情報・家庭役割に関する情報・社会的役割に関する情報・症状に関する情報・皮膚炎悪化に影響があったと考えられる情報など研究に関連する情報だけを利用します。
利用予定日	開始日：実施許可日から1ヵ月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	女性の乳がん罹患患者数は増加傾向にあります。乳がんは腺がんの中でも放射線感受性が高いという点から放射線治療が選択され、放射線治療が重要な役割となっています。 放射線治療では、放射線性皮膚炎の発生リスクが高いといわれています。放射線性皮膚炎の悪化により、苦痛や生活の質の低下につながるため、重症化を防ぐ予防的ケアは重要です。 放射線性皮膚炎悪化予防に関しては、患者さんのセルフケアに頼ることが大きく、保清、保湿、機械的刺激からの保護が重要です。当院でも、放射線を受ける患者さんへは、保清、保湿、機械的刺激からの保護について説明し、治療開始後も継続的にセルフケア確立に向けた看護を行っています。しかし、皮膚炎が悪化し、苦痛症状を伴うことも少なくありません。 そこで、今回、皮膚炎が悪化した患者さんの背景やセルフケアの状況を振り返り、皮膚炎悪化の要因を明らかにすることを目的として調査することとしました。
研究の方法	診療録・看護記録・治療RIS（部門システム）から患者さんの基本的な情報（年齢・身長・体重など）や放射線治療に関する情報（回数・総線量など）・放射線治療の経過・生活スタイルなど皮膚炎悪化に影響すると思われる情報を調査して分析します。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、

	下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 研究責任者：旭川医科大学病院 看護部 看護師：平 千亜紀 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号 電話番号 0166-69-3434（放射線治療室受付）
--	---